

低炭素社会の構築に向けた国民運動事業

1,800百万円（1,500百万円）

地球環境局地球温暖化対策課国民生活対策室
総務課研究調査室

1. 事業の必要性・概要

気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第5次評価報告書により、気候変動（地球温暖化）への懸念等、地球規模での危機に直面していることが明らかとなった。そうした機会を捉え、国民の気候変動に対する危機意識を再度醸成しつつ、低炭素社会構築に向けたあるべきライフスタイルデザインを発信・共有し、実践につなげるため、気候変動キャンペーン「Fun to Share」を開始した。2050年までに80%の温室効果ガスの排出量の削減という長期的な目標の達成と低炭素社会実現のためには、様々な主体と連携をした多様な広報・イベント等により事業者や国民の理解を深め、自主的な行動による低炭素社会の構築に向けた国民運動を盛り上げ、ライフスタイルの变革を訴えていく必要がある。

また、IPCC等における今後の気候変動をめぐる議論において、国際交渉を我が国がリードするためにも、地球温暖化対策に対する積極的な国内世論の形成が重要である、そのためには、国民が今以上にリアリティをもって気候変動（地球温暖化）の影響を感じることができるよう、地球温暖化対策への理解促進を図るための情報提供が求められている。

これらを踏まえ、(1)最新の科学的知見を用いた分析を行い、(2)国民にわかりやすく語りかけるための基盤を整備し、(3)メディア等による情報の伝達に加えて、人と人との対話を通じて直接説得力をもって伝えることが重要である。

2. 事業計画（業務内容）

①低炭素社会づくり推進事業

企業、団体等に対して、低炭素社会構築に向けた具体的な行動の促進、省エネ技術・機器の導入の必要性等を気候変動キャンペーン「Fun to Share」のもと、様々なイベントやメディア等を活用しながら伝えていく。

②CO2削減アクション推進事業

個人に対する地球温暖化対策に関する情報の確実な伝達、具体的な行動の促進、他者や地域のつながりの促進、個人で行うことのできる削減対策の提案等を気候変動キャンペーン「Fun to Share」のもと、イベント、メディア等を効果的に活用し伝えることで、積極的な世論形成を促進する。

③地球温暖化伝えるプログラム事業

普段から教える機会の多い者（伝道者）を募集し、環境省が用意する国民理解の醸成のための各種資料を活用しながら、地域セミナー等の国民に身近な場面で

温暖化に関する情報を発信し、理解拡大を図る。

④温暖化影響及び国民への情報発信事業

関係省庁と連携しつつ、IPCC 第 5 次評価報告書等の最新の科学的知見に基づき、日本付近の詳細な気候変動による影響評価を行うことで、その影響に関する情報をわかりやすい形に加工して説明することを可能にする基盤的情報を整備する。

⑤低炭素社会への変革を促す情報発信事業

温室効果ガス排出削減の長期目標達成のため、気候変動キャンペーン「Fun to Share」に賛同する取組等情報の発信する場を設置し、また動画や画像等を収集整理し、わかりやすく活用しやすい情報として発信する。

3. 施策の効果

インターネット、メディア等による情報の伝達や人から人、地域から地域といったつながりにより効率的に浸透、定着させることにより、国民の温暖化問題に関する理解を深め、低炭素社会にふさわしいライフスタイルへの変革の定着と基盤の構築を図り、民生部門による CO2 排出量を削減する。

低炭素社会の構築に向けた国民運動事業

平成27年度要求額
1,800百万円 (1,500百万円)

背景・目的

(1)、(2)、(5)

低炭素・循環・自然共生を統合的に実現する新たな文明社会の創造に向け、豊かさ、地域への愛着等を実感できるライフスタイルデザインを、地域や企業等と連携し、国民運動として提示

(3)、(4)

気候変動の影響等について、IPCC第5次評価報告書の科学的知見に基づき、人から人への直接説得力を持った語りかけの機会を設け、低炭素社会にふさわしいライフスタイルへの変革と基盤の構築を図ることで、特にCO2排出量増加が著しい民生部門の排出量削減を図る。

事業スキーム

事業期間：平成25年度～
委託対象：民間団体等

事業概要

- (1) 低炭素社会づくり推進事業 (776百万円)
- (2) CO2削減アクション推進事業 (225百万円)
- (3) 地球温暖化伝えるプログラム事業 (200百万円)
- (4) 温暖化影響及び国民への情報発信事業 (299百万円)
- (5) 低炭素社会への変革を促す情報発信事業 (300百万円)

期待される効果

(1)、(2)、(5)

低炭素の視点からのライフスタイルデザインの実践により、一人ひとりが豊かさ、幸せ、地域への愛着等を実感できる地域・社会を実現

(3)、(4)

低炭素社会づくりを実現する人材育成や取組の実施を通じて活力ある地域づくりに貢献

豊かさや幸せを実感できる
地域・社会とライフスタイルの実現

危機感を共有し、実際に取組む
企業、自治体、個人の拡大

気候変動キャンペーン「Fun to Share」を軸とした低炭素社会の構築に向けた国民運動

低炭素
社会作り
推進事業

CO2削減
アクション
推進事業

低炭素社会へ
の変革を促す
情報発信事業

地球温暖化伝えるプログラム事業

伝道者
温暖化の現状を伝える

環境省が提供する温暖化に関する最新情報を人から人へ発信し、理解拡大を図る。

環境省
伝道者の募集

セミナー
国民が知見を得る

地球温暖化影響及び国民への情報発信事業

分かりやすい温暖化影響情報の作成

IPCC第5次評価報告書等の最新知見の活用

専門的な内容をわかりやすく加工して普及啓発

温暖化影響に関する
リアリスティックな理解の促進

企業
地域
個人等

- ◆ホームページ参加
- ◆映像、ツール等各種コンテンツ
- ◆イベント、メディア (含ソーシャル)

発信 (企業や地域と連携)

賛同企業・団体、
賛同者

企業・団体、個人キャンペーンへの参加、
気候変動問題への関心、危機感の醸成



低炭素社会の構築に向けた国民運動事業(参考)

低炭素社会作り推進事業

①企業向け施策

- ・地球温暖化国民運動HP等で取組の呼び掛け
- ・気候変動の脅威への科学的知見の発信
- ・企業が先進的な取組を行うことへの後押しとなるPR展開(先進的な環境技術取組の紹介等)



②地域向け施策

- ・地域メディアとNPO等の連携支援
- NPO・NGO等の民間団体とメディアが連携し、温暖化防止活動を広く訴求



(福井県にて廃食油を回収しBDFを生成)

- ・あかり未来計画、スマートムーブ等、キーワードを絞りかつ産業界とも連携した呼びかけの展開



CO2削減アクション推進事業

個人向け施策

- ・気候変動の脅威への科学的知見の発信、危機感の醸成
- ・あるべきライフスタイルデザインの提示(住まい方、買い方、働き方等の具体的な提案)
- ・クールアースデー等



◆クールビズ、クールシェア

- ・冷房時の室温28℃でも快適に過ごせるライフスタイルの提案



◆ウォームビズ、ウォームシェア

- ・暖房時の室温20℃でも快適に過ごせるライフスタイルの提案



低炭素社会への変革を促す情報発信事業

- ・企業・団体・地域(以下、企業等)の技術や取組に実施に触れ、体験できる場の設置等。

- ・企業等と企業等との連携を促し、より一層の低炭素社会への推進(例)

横浜市×日産×三井リパーク＝カーシェアリング



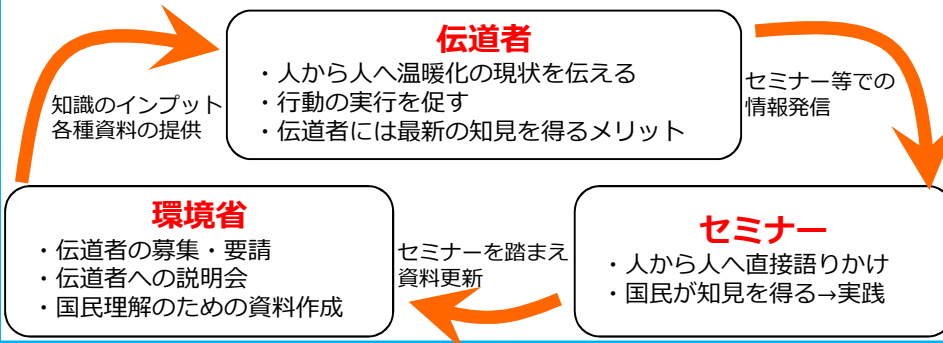
- ・全国の先進的かつ効果的な取組や事業成果等を、収集し動画や画像等データで作成。
- ・分かりやすく、かつ活用しやすい情報として利用度の高い様々な媒体に応じた形態での発信し、様々な分野や地域における低炭素社会の実現に向けた主体的な取組を促す。

地球温暖化伝えるプログラム事業

伝道者とは・・・普段から多数に接触し教える機会の多い者

※大学教授等教員、企業CSR担当、塾講師、気象予報士等を想定

- ・地球温暖化による影響のリアリティを伝えるため、伝道者を募集
- ・新たな科学的知見が公表される度に資料を更新し、常に最新の情報を発信
- ・メディアやセミナーなど国民に身近な場面で情報を発信



地球温暖化影響及び国民への情報発信事業

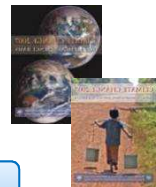
分かりやすい温暖化影響情報の作成

- ✓ 日本付近にクローズアップした、詳細な温暖化予測を実施
- ✓ 社会・経済・生態系等の様々な分野の温暖化影響を予測



IPCC第5次評価報告書等の最新知見の活用

- ✓ 最新の科学的知見を気候変動影響予測及び対策に導入
- ✓ 評価報告書の内容をわかりやすく伝達



専門的な内容をわかりやすく加工して普及啓発

- パンフレットの発行
- 国際会議や公開シンポジウム等の開催
- ウェブによる情報発信